

発刊にあたって

沖縄県知事
玉城デニー



このたび、戦後80周年平和祈念事業の一環として、『戦後80年おきなわ女性のあゆみ』が発刊の運びとなりました。

本書は、沖縄において様々な分野で活躍してきた女性たちの歴史を後世に残し、次世代へ継承するため、戦後80年にわたる軌跡を9つの章からなる人物編と、時代の動きを記したコラム、沖縄の女性の活動等に着目した年表で構成されています。

戦後の沖縄は、様々な課題が山積するなかで、女性たちは懸命にくらしを支え、時に団結し、女性の地位向上や生活改善を求めるため声を上げ続け、今日の平和で豊かな沖縄の発展を支えてきました。

私には、ふたりの母がいます。

生みの親である「アンマー」は、シングルマザーで私との生活を守るために育ての親へ私を預け、一緒に暮らすまでの8年間住み込みで必死に働いていました。

育ての親である「おっかー」は、いじめられ、泣いて帰ってきた私に「カーギヤ、カードゥヤル(人の容姿は皮でしかない。人を見た目で判断してはいけない。)',「トゥーナ イービヤ、ユニタキヤ アランドー (10本の指の長さと同じではない。みんな違って、みんないい。)」と、私の個性を認め、生きる力を育ててくれました。

戦後の混乱期を生き抜き、それぞれの人生をしっかりと歩んできたふたりの母の姿は、私の礎であり、誇りです。

戦後80年。本書の中の女性たちは、困難に立ち向かう強さと、他人を思いやる優しさをもって、激動の時代をしなやかに生き抜いてきました。その逞しさは、目まぐるしく変化する令和の時代において、沖縄の若者たちに、夢や希望をもって挑戦する勇気を与え、未来を明るく照らすことでしょう。

現在の沖縄県における女性の社会進出は、めざましいものがあります。他方、固定的役割分担意識やアンコンシャスバイアスなどの課題が引き続き横たわっています。

沖縄県としましては、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念のもと、男女共同参画の実現に向けた各種施策の取組みを止めることなく、さらに、性別にかかわらず全ての人の個性が尊重され、輝けるジェンダー平等社会の実現を目指し、歩みを進めてまいります。

約9か月の短い期間で本書の完成のためにご尽力頂いた宮城晴美委員長をはじめとした編集委員の皆様、取材に応じてくださった掲載者の皆様、そのご家族等関係者の皆様、執筆者の皆様、ほかご協力いただきました多くの関係者の皆様に心から感謝を申し上げ発刊にあたっての挨拶といたします。